

野菜品種選定のポイント

53年度の推奨品種

園芸部長 中原 忠夫

昭和53年度の農業界は減反政策、黒字べらしのため輸入制限品目をめぐる攻防など、波乱の多い年になりそうです。北海道の減反目標はきわめて厳しく、転換畑への野菜の作付もそうとうのびるものと予想されます。ところで、野菜の価格は需給によって不安定であり、豊作貧乏というようなこともたびたびおきています。新しく野菜を作付する人はもちろん、既存の産地でも、転換畑ではたいした作をあげられないから、大勢に影響ないなどとノンキにかまえず、品質の良いものを、少ない経費で生産し、競争力をもって計画的に市場に出荷することを真剣に考えなければなりません。野菜の作型にはいろいろあり、少しでもよい値段で出荷しようと、前進栽培もエスカレートしています。そこには管理技術、燃料費、移入物との競合など多くの壁が見られ、品種についても検討材料が多い。ここでは品種を中心とした栽培上の問題点を分析し、品種選定の参考とします。また推奨品種を主体にとりあげることにします。

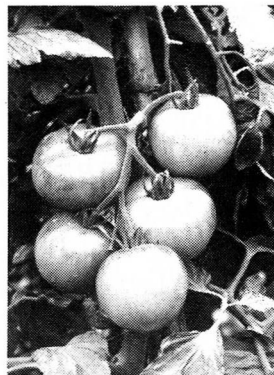
1 トマト

イ 栽培型

栽培型	播種期	定植期	収穫始
ハウス、トンネル	1月下～2月中	4月上～5月中	6月中
露地	3月中～下	5月中～6月上	7月下
抑制	6月上	8月上～中	10月上

トマトは鮮度が要求されます。地物が出荷されると輸送物より有利に取り引きされます。しかし露地ものが出まわりはじめると安値になる場合が多いです。高値はせいぜい6月いっぱいくらいなので、ハウス栽培ではだんだん播種期が早められ、1月に行なわれるようになってきました。トマトは比較的寒さに耐える種類だが、温度光線に敏感で、生育着果が左右されます。したがって育苗には周到な管理を必要とするし期間も長い。しかし、

育苗の初期は僅かな床で間にあうので厳寒期の播種も可能です。北海道におけるトマトハウス栽培面積は97万m²、全面積の40%をしめ第1位であります。



ロ 品種選定上の問題点

① 早期収量、着果性

トマトは育苗期間が長く、また定植後、早春には生育適温の20～24℃（夜間15～20℃）を保つためにはかなり管理手間がかかり、トンネルではいちじるしい。それだけに収穫始めの数日が価格に影響することが大きいから、低温、不良環境下の着果性、早熟性が要求されます。ハウスではさらに粒の大きい長期多収タイプが要求されます。

② ホルモン処理と果形

ホルモン処理によって無理じいして肥大させる場合が多く、ホルモン処理による乱形果の発生は品種によって差がみとめられます。

③ 各種病害の抵抗性品種

栽培面積の増加、ハウスの連作に近い栽植頻度、前進栽培による悪環境下では各種病害の発生がふえてきています。現在耐病性品種の育成が進み、葉カビ、かいよう病、疫病、ウイルス、スジグサレ等に複合抵抗性をもつ品種も発表されています。しかし耐病性品種といっても免疫性ということでないから、つねに事前の予防につとめなければなりません。一般に耐病性品種は樹勢が強いので肥培に注意しないとツルボケをおこし熟期のおくれることが多いです。

(スジグサレ)

ハウス栽培で被害多く問題になっています。

果の内壁が褐変するものと果皮が硬化し、黄色がかって赤く着色しないものがあります。褐変型は品種により、白変型はカリ栄養の不足によるといわれます。やっかいなことに早生型の品種、旺盛な生育をし、葉色濃く、根張りがよいなど増収と結びつく形質のものに発生多いです。また日照不足、チッソ過剰のようなときに発生多いです。

防止対策としては葉ばかりでなく果実に陽が当るようにし、通風をはかります。チッソ肥料の分施、石灰の多施もつつしむことが大切です。

ハ 品 種

一代交配，強力旭光

リンモン，菱潤，ハカビ，ネマトーダなどに複合抵抗性を持ち，TMV，スジグサレにも強い。極早生で1～2段の着果が安定しており，低温での肥大着色良好な品種です。

一代交配 ひかり福寿

福寿2号より2～3日早い。樹勢強健で低温弱光下での生育すぐれ，花数少なく，大玉となり，玉揃いの良い極早生種です。

ひかり，宝冠2号，米寿

ハウス長期多収，トンネル，露地向

2 キュウリ

イ 栽培型

栽培型	播 種	育 苗	定 植	収穫始
ハウス	3月上中	50日接木2回移植	4月中～下	5月中
トンネル	3月下～4月中	30～40日1回移植	4月下～5月中	6月上
露 地	4月中～5月上	30～40日 "	6月上	7月下
抑 制	6月下～7月上	30～35日接木 "	8月上～中	9月上

キュウリは年中需要があり，輸送性に富むので本州より移入量の多い野菜の1つです。ハウス栽培面積は48万m²あるが，栽培の主体はトンネル，露地となります。

ロ 品種選定上の問題点

① 連作障害 つるわれ病

ハウスでは年に2作入る場合もあり，露地にも有機質を多用しないと良い成績をあげられないから輪作間隔も短く各種病害がふえて問題になります。つるわれ病の回避のために促成，抑制では接木が常識になっています。促成栽培では低温伸長性の強い黒タネ南瓜を台木にすると20%以上の増収につながります。抑制用に黒タネ南瓜を使うと高温時の発育が思わしくなく，新土佐南瓜の方が成績よいです。

② 果色，果形

小型で果色の濃い，食味の良い白イボ系が人気を集めています。しかし白イボ系は収穫期間の短い北海道の一般的な栽培では収量があがりません。

③ 着果性

主枝型（主枝節成黒イボ） 長日落合

側枝型（側枝着果，白イボ） 黒さんご

主枝小づる型（主枝，側枝着果，白イボ）

ときわ光3号P

キュウリの雌花は主枝（親蔓）に多くつくか，主枝につかず側枝に多くつくか，主枝と側枝によくつくタイプに分けられます。

主枝型の品種は誘引しやすいので，単位面積当りの栽植本数を多くすることによって，早期収量をあげることができます。ところが肥料切れなどの障害にあうと，花が開いても落花したり，また肥大の悪いことがあり収量はあがりません。

側枝型の品種は主枝に1～2果しかつかないが側枝の発生がよく，側枝の1節めにはかならず雌花がつきます。側枝は初めから要領よく整理しないと枝が繁茂して手におえなくなり，よいものとれなくなります。栽植本数を少なくして長期収穫をねらう場合には適したタイプであるが，初期の枝の整理は欠かせません。

キュウリのタイプによる着花性（農業センター）

品 種 名	葉の 大小	平 均 節間長 cm	主枝♀花数		側枝♀花数		果長 cm
			促成	抑制	促成	抑制	
長日落合	大	8.1	13.6	7.9	5.8	4.9	26.5
黒さんご	中	6.6	7.8	3.3	2.5	2.4	28.2
ときわ光3号	中	7.8	6.0	3.0	2.1	1.5	25.7

ハ 品 種

一代交配長日落合二号

黒イボ，育苗容易で春，夏育苗とも節成性強く早期収量多い。前進栽培には接木して低温伸長性をあたえると能力を一層発揮します。

サカタ交配黒さんご胡瓜

四葉系，果色濃い中長で品質極めて良い。側枝型だが主枝の着果は多い方です。

一代交配 ときわ光3号P

白イボ，不良条件下での着果良く，ハウスの促成，抑制に好評，側枝の発生多いが節間短く，あたかも主枝に着果したように見えます。ベト，ウドンコ病，斑点細菌病に強いです。

3 スイカ

スイカはメロンとともに夏を楽しませてくれる果物として大切なものです。接木栽培の普及によ

り連作が可能となり、数 ha に及ぶ大規模栽培もあちこちでみられるようになりました。北海道では天候の影響による豊凶の差が著しく、7月から8月にかけての消費も天候に左右されやすいです。栽培の狙いは1番果を7月に収穫するというところにあつて、早い地帯で7月中旬にもぎはじめています。またハウスを利用し、(3月中旬播種、4月中旬ハウス内定植)7月初旬出荷による有利性もみとめられています。

イ 品種選定上の問題点

① 低温着果性

花のつく位置は品種間に大した差はないが、開後の成熟日数に差がみとめられます。トンネル栽培では1~2日の熟期の差が価格を大きく左右します。

② 輸送性と品質

スイカの出荷は袋からダンボールと移行し、輸送法も改善されてきましたが、もともと1個の目方が5~6kgもあり、果皮もわれやすいので、いたみの少ない品種が望まれます。果皮のかたい品種は肉質もおちるといわれるので縞王級の質の良い、輸送性のある品種が基準となります。

③ 耐病性 台木との親和性

接木によってつるわれ病を防げるようになり、また夕顔、南瓜それぞれの台木による利点がみとめられています。また西瓜の品種と台木品種間による適応性に差のみられるという報告もあります。

ロ 品種

品 種	果皮	肉 色	熟 期	特 性
新 三 笠	縞	鮮紅色	早 生	つるぼけせず作り易い
縞 王	〃	桃紅色	中早生	輸送に耐え市場人気最高
縞王マックス	〃	濃桃紅色	早 生	縞王より5~7日早い
三 喜	〃	鮮紅色	中早生	玉揃い良い豊産種
べにいち	濃縞	濃桃紅	中早生	低温伸長性抜群

(台 木)

夕顔 F₁ さきがけ 根の広がりよく早熟多収型

F₁ 接トップ 耐病性強く、豊産型

南瓜 F₁ 新土佐 No.8(エイト) 新美園

4 カンラン

イ 作 型

作 型	播 種 期	定 植 期	収 穫 始
ト ン ネ ル	3月上中	4月中下	6月中
夏 ど り	3月下旬~5月中	5月上~6月中	7月上
越 冬 用	5月下旬~6月上	7月上	11月上

(越冬用、完全結球直前のもの貯蔵、雪中出荷)

カンランは重要な必需野菜ですが、栽培が容易なため、年により需給のバランスがくずれ、価格の変動がはげしい種類です。道では冬季間の野菜確保対策の手段として越冬用栽培に力をいれています。

ロ 品種選定上の問題点

① 晩抽、耐高温障害

春播の一代交配種の多くは、早春播の場合、育苗中、トンネル定植後10℃以下の低温にあつと抽台をおこしやすいです。また苗床日数の長くなった大苗は定植しても植えたいみは少ないが玉ノビが悪いです。カンランはトンネル内で27~30℃の高温にあつと生長点が障害をうけやすく、高温障害は生長点の発育を抑え、分球したり、かたく結球しないことがあり、アラスカなど障害をうけやすい品種です。

② 良質、耐病性

四季穫で代表される交配種は極めて丈夫で、結球後の裂球少ないが、それだけ質が粗剛で、良質の系統程弱いです。やっかいな根瘤病には耐病性品種が育成されていません。

ハ 品 種

品 種	結 球 日 数	球 形	平 球 均 重	球 色	質	裂 球 難 易
アラスカ	90日	丸	1kg	鮮 緑	軟極良	++
C M	95	〃	1	〃	中	+
S E	120	扁 円	2~3	濃 緑	軟 良	++
エコー	130	〃	3	濃青緑	良	+
四季穫	140	〃	2~3	暗 緑	堅	-
Y R錦秋	130	〃	3	濃 緑	良	++

5 ホウレンソウ

イ 栽培型

栽 培 型	播 種 期	収 穫 期	
ハウス促成	2月下~3月上	4月中~下	(果菜の前作)
トンネル	3月下~4月上	5月上~下	
露地春	4月下~5月下	6月上~7月上	(揺あきハウス利用) (ハウス利用収穫長期)
夏	6月下~7月中	7月下~8月下	
秋	8月上~9月中	9月上~11月	



ホウレンソウは周年需要が多い野菜です。冬場を除いて鮮度が落ちやすいので近郊野菜に入ります。特性として、生育期間短い、肥沃でないによく育ちません。高温乾燥に弱く夏の栽培は北海道でも工夫が必要で、たいてい夏場は値が高い。

最近、発芽をよくし暑さをさけるため、裾あきハウスの利用が進められています。

ロ 品種選定上の問題点

① 整一性

ハウスだけでなく圃場でも全層施肥が行なわれ、うす播、シードテープの利用による間引の省力化などから整一性、早太りが望まれています。

② 耐暑、晩抽性

従来夏播品種はキングオブデンマークだけだったが、いろいろな品種が開発されてきました。

③ 耐病性

タチガレ、ベト病の被害が多い。生育期間が短く、収穫前の薬散は行なえないので耐病性品種の価値がたかいことになります。

ハ 品種

品 種	種子	葉柄	葉形	葉縮	播種適期	特 性
ニューサッポロ	丸	ヤ長	鈍尖	滑	春 秋	揃良好
ニュースター	角	〃	尖	〃	春 秋	生育良好
ニューアジア	〃	〃	〃	〃	春 秋	抽苔早い生育早い
バイオニア	丸	中	鈍尖	〃	春 初夏	ベト病に強い
サンシャイン	〃	短	だ円	中	5~6月播	形状バイキング並
シンフォニー	〃	〃	〃	〃	5~7月播	耐病性
ニューキング	〃	長	〃	〃	〃	〃 (ベト)
キングオブデンマーク	〃	〃	〃	〃	〃	極晩抽晩生

6 ニンジン

ニンジンは栽培適応性広く、各地に産地が出来、北海道ではたまねぎに次ぐ重要な移出用野菜となっています。ニンジンは収量、形状、色沢が土質、肥



瘦、気象によって左右されるため品種に対する関心の強い作物の一つといえましょう。

ニンジンの収量を構成する要素は株立本数と揃いで、反当25,000~40,000株(30~36cm×10cm)を立て、適期に収穫して屑ものを少なくつとめます。出荷計画にあわせて品種の選定、播種期を決めなければなりません。

品 種

品 種 名	根長	根径	尻つまり	心の色	葉枯病	
極 早 生 四 寸	15.5	6.1	ヤ良	濃	+	早太りUSより小型
U S 四 寸	16.5	6.5	〃	ヤ濃	++	早太り、大型、早期収穫
ニューレッドコア	16.0	5.8	〃	濃	+++	長め型、早太り
レッドコア	15.0	6.3	良	〃	+++	揃い良く収穫多い
チャンテネーNK	17.0	6.7	中	〃	+	耐病性、色良く裂根少ない
紅 芯 七 寸	19.0	6.3	中	〃	++	大型、色良く加工向

7 春ダイコン

時なしより春みの、春みのより夏みの、みの早生より秋大根へと、早播競争がエスカレートしてきています。マルチ、トンネルによってもそれぞれの品種には播種期に限界があり、早播による抽台のため収穫皆無の例も見られます。品種改良によって品質、形状のすぐれた優良種が育成され、たのもしいかぎりであります。ただ残念なことに本年は品切れとなっています。

品 種

F₁ 春早生 時なし型、葉色濃く早太り、首部僅かに着色、質もよく時なしにかわる品種として有望
F₁ 春 王 春みの型 根長45cm根形よく揃います。春みのより早播可能な晩抽型

長岡交配耐病総太り バイラス耐病性、形状総太りと変わらないが揃いがよいです。抽台については総太りよりおそいが7月に入ってから播種が安全です。

春大根播種期試験(昭52 札研)

播種期	品種名	抽台始	抽台期	抽台率	58 日 目	
					葉 数	根 径
4月27日	春みの	月 日	月 日	%	枚	cm
	夏みの	6. 13	6. 16	100	11.9	1.8
	時なし	7. 7	—	—	16.1	2.0
	春早生	6. 20	25	79	20.4	3.0
5月27日	春 王	16	22	86	15.6	2.1
	春みの	7. 13	7. 16	84	23.2	3.6
	夏みの	12	16	78	24.4	3.8
	時なし	—	—	—	19.6	3.0
	春早生	19	—	3	23.0	4.4
	春 王	12	—	5	28.9	3.8